

持続可能な社会づくりのために 最終号

環境省 環境カウンセラー 出口 省 吾



海外旅行に行ったとき、自販機や使い捨てのペットボトルや缶に入った飲み物を捨てることはほとんどなかった。

理由は、1台で一般家庭1軒分の電力を使う自販機や、中身の値段よりも高い使い捨て容器に入った飲み物は、その国の人たちから受け入れられないからということだった。

それは、近くに自販機やコンビニができて、「また便利になった!」と喜ぶ国の人たちと正反対の考え方である。

今の自分だけが大切なのか、今が少し不便になっても次の世代や地球全体も大切にしようとするかの違いかな?

第8話 「市民力」

（広める活動事例②）～「子どもの未来を語る会」の活動～

「子どもの未来を語る会」とは、いなべ市と東員町の小中学校教職員と保護者代表でつくる会です。本年度、そこで配られた資料の抜粋を紹介します。

【配布資料の抜粋】 今年は、「地域から発信！身近な環境問題に目を向けよう～一人ひとりが今日から考え、できること～」というテーマを設定しました。温暖化をはじめとする地球環境の危機は、今すぐ、多くの人動き出す必要があるといわれています。今を生きる私たちは将来世代の人たち（子どもたち）に安全で安心な生活ができる地球を残していく責務があります。環境問題に目を向けていただき事実を知っていただくこと、そして子どもたちとともに何ができるか皆様と知恵を出し合ってください、子どもたちの未来に向けてより良い環境を創り出すために話し合いたいと思います。

本会では、事前に執行部が何度も集まって各学校で実施できる環境教育プログラム(2種類)を作成しました。全体会では、昨年11月に東員第二中学校で160人程が参加し、外部講師の講義やワークショップ、作成したプログラムの公表、研修視察報告の後、9つの分散会に分かれて「自分たちは何ができるか」、「子どもに何を伝えていくのか」などを話し合いました。

この活動では、次のようなことが期待できると考えています。

- ①学校と保護者が同じ目標に向かって力をあわせること。
- ②次世代のことを考えて大人たちが何が行動しようと動き出すこと。
- ③子どもたちにも未来を生き抜くための教育をしていくこと。
- ④学校と保護者以外の人たちにも広まる可能性があること。

環境問題を解決するためのキーワードは、「市民力」です。市民がこれらを自分たちの問題として考え、解決していくと自主的に動き出すことです。それが広まっていくと、とても大きな力になり、やがて行政や企業の姿勢も変わっていくのです。このような働きかけが地球規模で広がれば地球環境問題も解決していくでしょうし、持続可能な社会へと発展していくのです。また、いなべ市の財産である豊かな自然と共生できるような「いなべブランド」を構築、創造することが、市がかかえる諸問題の一部を解決していく手掛かりになるのかもしれませんが。

最後に「持続可能な社会づくりのために」は、今回をもって終了します。この連載を通して、少しでも環境問題について考えていただくきっかけになればと思っています。これまで読んでいただき、ありがとうございました。

私が代表をしている環境ボランティア団体「環境学習サークルみえ」（会員38人）では環境イベント出展や出前講座をしています。また、三重県が主催する環境教育指導者養成講座等を終了し、本会で一緒に活動してみたいと思っている方の連絡をお待ちしています。

☎三重県環境学習情報センター ☎059-329-2000

☎北勢庁舎 生活環境課 ☎72-3946 ☎72-3748